

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 小笠原村立母島小中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園       小学校       小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校       中高一貫<sup>※注2</sup>       高等学校  
 教員養成大学       専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む    ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒100-2211

小笠原村母島字元地

E-mail [shokuinshitsu@hahashouchu.ogasawara.ed.jp](mailto:shokuinshitsu@hahashouchu.ogasawara.ed.jp)

Website <http://www.hahasyoucyu.ogasawara.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 13 名      女子 17 名      合計 30 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、母島を誇りに思い、ともによりよい社会を築くことのできる人間を目指し「意欲的に学ぶ児童生徒、自らきたえる児童生徒、社会のために尽くす児童生徒」を学校理念として、小笠原の豊かな自然と特有な歴史、伝統文化に対する学習を通し、母校や郷土に対する誇りや愛着を育むためにESDを推進する。

具体的には、無人島での校外学習、カメの卵の飼育と放流活動、星空観察会、全校児童による南洋踊り、小笠原太鼓、父島移動教室での戦跡ツアーを柱に、①豊かな自然に係わる活動、②伝統文化に係わる教育、③特有な歴史に係わる学習、を行った。

### ① 豊かな自然に係わる活動

本校では1年生から6年生までが島内または島外の様々な場所で校外学習を行っている。特に4年生・5年生は合同で平島または二子島・向島という無人島に隔年で行っている。海鳥や植物の固有種の観察、及び外来種の除去活動等を行っている。4・5年生は他にも乱獲から数が減ってしまったウミガメを守り育てるために、卵の観察と孵化までの飼育、放流を行っている。放流会では調べ学習が

ら分かったことを参加者に発表をしている。

また3年生～6年生を対象とした星空観察会を行っている。母島は街灯が少なく、普段から天の川や流星も観測できるほど星が多く見られる。そこで、島で見られる星座等を調べ、1年に1回星空観察会を行っている。毎年季節を変えることで、4年間で春夏秋冬の星座を観察できるよう配慮している。

## ②伝統文化に係わる活動

小笠原の伝統舞踊「南洋踊り」を毎年運動会で全小学生児童が踊っている。南洋踊り保存会の方を招いて、その歴史や踊り・歌詞の意味等を教えていただき、運動会では衣装を身に付け披露している。

また4年生から6年生まではクラブ活動として「小笠原太鼓」を行っている。小笠原太鼓保存会の方を講師として毎回招き、叩き方やリズムなどを教わっている。児童らは6月の返還祭、11月の学芸会、3月の島を離れる人々へ向けて行う見送り太鼓、の年3回を発表の場としている。

## ③特有な歴史に係わる活動

小笠原は硫黄島を始めとして戦場となった島である。そのため島内のいたるところに塹壕や壕が掘られていたり、身近な所に砲台があったりして、戦争の痕跡を間近で見ることができる。

3年生の乳房山校外学習では、登山ルートの中にアメリカ軍が落とした爆弾による大きな穴の観察が出来たり、塹壕や壕の中に入ったりすることができる。また西浦校外学習でも、日本軍が海岸に掘った壕や倉庫、壊れた船を見ることができる。

6年生の父島移動教室では、戦跡ツアーが組まれており、ガイドの人に案内していただきながら父島の戦跡を見ることができる。

社会科の歴史で戦争を学ぶのは6年生からだが、本校では低学年のうちから戦争と平和について考える教育がなされている。



①の写真（カメの卵を掘り出す）



①の写真（無人島での漂着ゴミ回収）



②の写真（運動会での南洋踊り）



②の写真（学芸会での小笠原太鼓発表）



③の写真（乳房山校外学習）



③の写真（西浦校外学習）

## （2）活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

○わたしたちの小笠原（社会科副読本）
--------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>どの活動も、総合的な学習の時間及び、社会科・理科等の年間指導計画に位置付けている。各学年、校外学習で、小笠原独自の植物や地形、歴史を学べられるよう計画している。地域の方や専門家を事前学習や当日の講師として招き、詳しく学べるようにしている。普段から地域の人や環境省・レンジャーの方を他の授業でもゲストティーチャーとして招き、地域の人材活用という面でも、協力していただきながら取り組んでいる。</p> <p>一方で母島の星空を普段から見ているながら星や星座が分からない子が多い、という課題が挙げたことから、総合的な学習の時間で「小笠原の星空」という単元を作り、理科の学習と合わせながら取り組む等、児童の課題を克服するための教材作りを行った。</p>
---

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

本校では主に総合的な学習の時間でユネスコスクールとしての活動を行っているため、ユネスコスクール担当と、総合的な学習の時間担当を同じ分掌内で扱っている。

地域の方々の協力なしには行えない活動も多いため、外部機関等との連携を密にとることで、毎年同程度の内容の授業が受けられるようにしている。

また各学期に1回ずつユネスコ集会を実施し、教員から、または児童からユネスコに係わる発表を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

校外学習後すぐに行われる教員の反省や年1回行う学校評価での教員・保護者からのアンケートをもとに次年度の計画を練るなどして、よりよい活動に繋がるようにしている。成果として、内地では味わうことのできない校外学習の数々、島固有の動植物の調べ学習等を経て、小笠原を好きになる児童が多いということが分かった。課題としては、保護者からの要望で、小笠原ならではの活動を多く取り入れてほしいという声が挙がるものの、指導要領に則って活動を行うためすべての要望に応ずることが難しい場合がある。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

学校便り「ぶーげんびりあ」を島内全家庭に配布することで、学校関係者のみならず、地域の人々にも取り組みを伝えることができている。また年1回各学年による朝礼で、調べ学習の成果を発表している。1月の学習発表会では、各学年のブースに調べ学習の成果を展示したり、総合的な学習の時間の発表会で、全小学生や大勢の保護者・地域の方に向けて各学年10分程度の発表を行ったりしている。また発表を聞いた低学年は、次の学年で学習することへの期待感を高めている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

本校では都レンジャー、環境省、退官された元教員、ガイド、保護者、その他諸々の方々の協力のもと、多くの教育活動が行えている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

本校は地域的な特殊性により、他校から交流を望まれることが多い。しかし、極小規模校である本校が数多くの学校と交流することは、児童に過度な負担を強いることになりかねないため、現在はほとんど行っていない。しかし、交流することで児童によりよい刺激や、新しい考えなどを持たせられるということを考えると、今後検討していきたい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

本校の児童は都内の児童と比べ、自然への敬虔な態度、動植物愛護の精神、自然界の厳しさについての理解、といった自然に対する意識が著しく高い。また図工では美しい海、緑豊かな山々、魚や海鳥といった自然を常に見ているため、それらを選んで作品作りすることも多い。「夕日がきれい」「海の青が美しい」等美しいものに対する称賛の声も普段からよく聞かれる。保護者や地域の方もそのようなカリキュラムの在り方に深く理解を示していただき、協力を惜しまず、温かく見守ってくださる。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- 1, 2年生: 南崎校外学習(母島の植物調べ)  
3年生: 乳房山校外学習(乳房山の植物・戦跡調べ)、西浦校外学習(自然体験及び戦跡調べ)  
4年生: 平島校外学習(外来種除去、海鳥の調査)、ウミガメの卵の飼育及び孵化・放流体験、北村校外学習(戦前の集落調べ)  
5年生: 平島校外学習(外来種除去、海鳥の調査)、ウミガメの卵の飼育及び孵化・放流体験、南崎校外学習(海鳥を野ネコから守る活動の調べ学習)  
6年生: 父島移動教室(戦跡ツアー、国立天文台VILAの見学、ビーチグラスを使った作品作り、オガサワラオオコウモリの生態調査等)
- 3~6年生: 小笠原の星空観察(30年度は冬の星空)  
4~6年生: 父母学習交流会(父島に行き、社会科見学及び、父島の小学校との学習交流を図る)  
全校児童: 年3回のユネスコ集会